

皆さんの声を力に 頑張っています

日本共産党 鈴鹿市議団



高橋 さつき
鈴鹿市議会議員

笑顔あふれる鈴鹿へ

【略歴】1970年鈴鹿市神戸生まれ。神戸高校、県立公衆衛生学院卒。歯科衛生士として働く。2019年鈴鹿市議に当選、現在1期目。「中学校給食を実現する会」など、子どもや女性の願いを市政に届ける活動をすすめる。2008年日本共産党に入党、現在党北勢地区委員・鈴鹿市委員。
■西条4-144(事務所)電話324-8226



石田 秀三
鈴鹿市議会議員

市民の声、届け続けて

【略歴】1953年鈴鹿市生まれ。神戸高校、静岡大人文学部卒。鈴鹿市役所で12年勤務の後、1987年鈴鹿市議に当選、現在9期目。毎議会質問に立ち、一般質問141回(本年9月まで)、歴代4人の市長と論戦。1972年日本共産党に入党、現在党鈴鹿市委員長、市議団長。
■伊船町2751 電話371-0423

学校トイレの 洋式化すすむ

改選後初の19年6月議会で、「古い・臭い・汚い」学校トイレの改善を求めました。洋式化率が全国43.3%、三重県41.5%、鈴鹿市31.4%と遅れた実態を示し、集中的な改修を提案。

市は20年度から4年で14校の改修の計画を立て、さらに計画を前倒し、2年間で予定した14校の洋式化改修を完了しました。また、図書館や伝統産業会館などの施設のトイレも、洋式化や男女別化が進みました。

高すぎる

介護保険料引き上げストップ 国保料は5.9%引き下げ

2021年度からの「第8期介護保険事業計画」の介護保険料を、当初5%引き上げる案に対して、毎年の黒字が貯まった「準備基金」20億円を使って引き下げを求めました。

その結果、21年度からの引き上げはやめて「据え置き」となりました。国民健康保険料も16億円もの黒字・

基金を使って引き下げを提案。22年度に平均5.9%引き下げとなりました。

子ども医療費

「窓口無料化」

中学卒業まで拡大

19年度に3才から6才まで拡大された子ども医療費窓口無料化を、さらに中学卒業まで広げること求め、22年9月から実現されました。

また所得制限も23年度から廃止され、義務教育終了まで全ての子どもが、お金の心配なく安心して医者にかかれるようになりました。

スタジアム計画が白紙撤回に

鈴鹿青少年の森

まもりました

2021年夏、県営鈴鹿青少年の森公園の樹木を5haも伐採し、サッカースタジアムを造る計画が浮上。市議団は「公園の自然をまもれ」と立ち上がった市民運動と共に、計画をゴリ押しする

末松市長に正面から白紙撤回を求め続け、本年11月、市長は「断念」を表明。予定地を囲んで7カ月も市民を立入禁止にしたフェンスは撤去となり、公園は市民の手に取り戻されました。



改修されたトイレ(神戸小)

値上げラッシュから 生活まもる

6月から年金削減、10月から医療費窓口負担2倍、物価高騰で、高齢者はトリプルパンチ。日本共産党は物価高騰からくらしと営業を守る緊急提案をしました。



日本共産党の提案

消費税を^{緊急に}5%へ減税
医療費負担増は撤回を

大企業と富裕層には応分の負担を求めて実行します。
零細業者・フリーランスに課税のインボイスは中止。

最低賃金^{週休2日8時間労働}手取月20万円

大企業の内部留保に課税

大企業減税の不公平を是正。課税に控除をもうけ、「賃上げ」「グリーン投資」を促進。新たな税収10兆円で中小企業を支援し、手取月20万円の最低賃金を。

暮らしも経済も成り立たない

軍事費倍増でいいのか

「物価が上がっているときに、年金を下げるのに消費税は下げない」「一方、軍事費は財源のあてもなく2倍化をねらう」——こんな冷たい政治では、暮らしも経済も成り立たないとの声を一緒にあげていきましょう。

党をつくって100年
あなたのご支持を日本共産党へ

市民の声に寄り添って

日本共産党
鈴鹿市議団

あたたかい市政をめざします

子育てを
応援します。



●学校給食費の無償化をすすめます。

●就学援助制度を広げます。

●学校施設・保育所の改修計画を前倒しして進めます。

●子ども医療費無料化を18才まで引き上げます。

市民の暮らし
まもります。



●国保料を引き下げます。子どもにかかる均等割をなくします。（黒字・基金17億円で）

●介護保険料も引き下げます。（鈴鹿亀山広域連合の基金22億円使って）

●生活保護を、市民の生活実態に沿った運用にし、生存権を守ります。

暮らしやすい
町づくりを
すすめます。



●交通不便を解消する、新しい生活交通システムを計画的に導入します。

●通学路・生活道路の整備、草刈りやラインの書き替えを早く行います。

市政のチェックは
議会の役割です。

●市民にとって「良いこと」には賛成・良くないことには反対の態度つらぬき、改善策を提案します。

